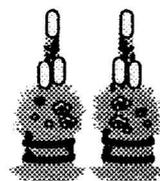


診断あきた

◆発行 (社)中小企業診断協会秋田県支部
〒010-0923 秋田市旭北錦町1番47号 秋田県商工会館
秋田県中小企業経営指導センター内
TEL018-823-6311 FAX018-823-8257



平成12年1月12日

第5号

巻頭言



『小粒でも
ピリ辛の秋田県支部』
秋田県支部
理事 亀谷 實

秋田県支部では平成11年度の登録更新研修を初めて実施した。従来は隣県の宮城、岩手支部または東京主催の登録更新研修に参加させていただき、お世話になった。協会の方針で登録更新研修を各県単位で実施することとなった。協会の登録担当宇佐神課長の来秋を仰ぎ、実行委員が研修手法を学んだ。全国最小会員数の秋田県支部も、協会本部の支援を得て自前で'99年度の登録更新研修を無事終了した。

研修内容は商業、工鉱業、情報3部門同時研修で、講師陣は産学官総動員体制を採り実施した。産では地元シンクタンク幹部、学は大学教授、官は通産局課長、協会本部役員と会員では元気印企業の現役役員、部長と錚々たる講師陣にお願いした。3部門ともプロフェッショナル講師で、2日間にわたった12時間研修も、会員はもとより非会員のアンケート結果からも、充実した研修で好評だった。会員の皆様ご協力ありがとうございました。

巨漢小錦を横転させ大相撲ファンを沸かせた技のデパート舞の海が、九州場所を最後に惜しまれて引退した。企業環境も規制緩和即国際化の波で、厳しさが一段と加速してきている。この厳しい環境下で、大企業以上の活躍の中小企業がある。中小企業の特性の一つ、フットワークの善さの発揮である。

ミレニアム2000年を迎えて、小粒な秋田県支部も、会員のダブルスキル化によりキラリと光る支部を目指している。また本来の目的である中小企業の自助努力への支援策でも、軽いフットワークを生かして企業発展に寄与しようと思意盛んである。

2000年の登録更新研修は更に企画内容を充実させます。秋田に多少なりとも縁のある診断士の皆さん、初秋の研修時には秋田に英気を養いに、ご夫婦同伴で観光がてら是非お立ち寄り下さい。会員一同、大歓迎でお待ちいたしております。

新入会員紹介

11月1日付で新入会員を迎えました。紹介します。



村上 明
【登録部門】工鉱業
【生年月日】昭和24年5月6日
【年齢】50才

【自宅】〒010-0041 秋田市広面字土手下14-1
(☎018-835-0738)

【会社・役職】

キャリアバンク秋田株式会社 専務取締役
〒010-0955 秋田市山王中島町2-16
(☎018-865-3111、FAX.018-865-3441)

【研究テーマ】ベンチャー企業(ベンチャー学会会員)、品質管理、経営戦略

【他の公的資格】「宅地建物取引主任者」「品質システム審査員補(ISO-9000)」「環境マネジメントシステム審査員補(ISO-14000)」etc

【趣味・特技】野球、ソフトボール(公認審判員)

【好きな言葉・座右の銘】『一期一会』

【自己紹介】

多くの人と接したい。共に夢を語り、研修を重ね、生の情報を交わしたい、そんな思いで50歳の転職を機会に入会しました。

想えば、妻の実家がある秋田に来て25年、家族も私も秋田で育ち、その恩を強く感じています。組織の中の栄達より残りの人生、個人の意思で愛する秋田にお返ししようと思い退職しました。

決断が速い、自信満々、強気、元気がいい、明るい、生意気、粗忽、短気、調子者、いろいろに見えるようです。誰に会う時も、常にベストの状態相手に接し、すがすがしさを、みなぎるパワーを感じてもらい、会った後エネルギーをもらったと感じてもらえるよう心がけています。

ビジネスとしては、人材職業紹介とISO-9000、14000の認証指導を柱にして、秋田県内の皆さんと共に資質の向上を図り自己実現を目指して、キラキラ輝いている、セクシーな人材ネットワーク作りに邁進するつもりです。皆さん宜しく申し上げます。

辰年四人衆

記念すべき2000年。干支は「辰」。会員の年男は四人。若手からご登場願います。



『2000年の心配事』

秋田市下水道部

堀 辰 生

昨年の年賀状に印象深いものがあった。彼の子供はたしか2人だったが、写真を見ると4人いる。それに彼の子供はこんなに可愛かったかな？実は、夫婦それぞれの子供のころの写真のスキャンしてパソコンに取り込んで、子供はデジカメで撮って画像を加工したのだ。趣味である「釣り」のホームページを作った友人もいる。パソコンといえば、表計算やワープロ、インターネットで電子メールや情報収集を行うためのツールだったが、今やビジネスの道具から「遊びの道具」となった。つまり情報収集といった受動的な利用から、ホームページを開設して情報を発信するなど自己表現の場所と変化したのだ。

1999年は、株式のホームトレードなど、インターネットを利用したビジネスが花開いた。パソコン売場は、かつてはパソコンマニアのオアシスだったが、今では、年配のご夫婦や茶髪の厚底娘が多くなった。ユーザーが変化したため、ホームページ開設代行などのニュービジネスも始まった。インターネットに商圏は無い、特定のマニアを顧客とするビジネスもネット上では日本全国いや全世界が対象となる。無限の可能性を秘めている。

私は、平成10年4月にAターンしてきたが、秋田は他地域と比較するとW（弱み）とT（脅威）が多すぎる。気候も時間距離も不利で少子高齢化も進んでいるからこそ、情報通信のインフラを整備し、パソコン・インターネットの利用に活路を見いだしてほしい。県内のISDN加入が40000回線を超え、「一家に一回線」もそう遠い日ではない。パソコンでおおいに遊んでもらいたい、きっと解決策が見つかるはずです。

先日、かの友人から電子メールが届いた。家族の写真をスクリーンセーバーにしたものだ。前の会社では、年賀のあいさつはメールでやっていた。心配なのは、年賀状をメールで送られることだ。なぜなら「お年玉抽選」が無いからだ。まてよ「お年玉つき年賀ハガキ」ではなく、「お年玉つき年賀メール」が発売される日も近いのでは？



『企業内診断士として』

(株)同和半導体

渡 辺 達 也

28歳で診断士として登録しましたが、早いもので今年には36歳の年男になります。私は、いわゆる企業内診断士ですので、日頃、企業内診断士として考えていることについて記してみます。

私の勤務先は、情報・通信産業の素材である半導体材料を製造しており、分類上は中小企業です（とはいえ100%大企業の出資ですが）。半導体材料製造業の特徴として次のものが挙げられます。

(1)付加価値比率の高い製品が多い

高い収益性を生むチャンスがあると同時に、収益性が売上高によって大きく左右されるリスクがある。

(2)大きい投資金額

売上高に対して設備投資・開発投資金額が大きい傾向がある。

(3)単価下落

製品ライフサイクルが衰退期に向かうまで、比較的大きな単価下落が続く傾向がある。（高付加価値の製品で顕著）

(4)先発メーカーの優位性

ユーザーで材料を評価する場合、比較的大きな評価コストが発生するケースが多い。後発メーカーは、価格や品質で大きなユーザーメリットを提示しないと販売に結び付けにくい傾向がある。

このような特徴から、収益性を確保していくための重要なポイントとして以下の2つが挙げられます。

(1)開発投資、生産設備投資のタイミング

投資が早すぎて、市場の立ち上がりを待たなければならない場合には償却費が収益を圧迫する。遅すぎれば、市場参入が難しくなり、参入できた場合でも単価下落により投資の回収が難しくなる。

(2)設備生産性

製造原価に占める設備償却費の比率が高い傾向があることから、特に単価下落が進んだ市場成熟期では、収益性を考える上で設備生産性が重要となる。

このようなポイントについて整理し、経営判断の材料を提供していくことにより、企業内診断士としての存在意義を示して行きたいと考えています。



『新年雑感』

北都銀行相談業務部

古木 智

新年おめでとうございます。本年も昨年同様よろしくお願い申し上げます。

景気は昨年の4～6月期に底を打ったのではないかといわれる中で、平成11年度の実質成長率はおそらくプラス1%前後になるとみられています。

マイナス2%程度の水面下に落ち込んでいた景気はようやくプラス成長に浮上し、日本経済は薄日が広がってきています。

今年は辰年ですが、「辰」という字には、陽気が一段と春らしくなり、すべてのものが盛んになるという意味があります。今年は是非、景気回復が着実に力強いものとなり、経済が活発になってほしいと願わずにはいられません。

昨年末に閉会した臨時国会は別名「中小企業国会」ともいわれ、中小企業関係諸法の改正がおこなわれました。中小企業基本法の改正では、法の目的が「大企業との格差是正」から経営革新などの「自助努力の支援」へと変更され、中小企業政策の大転換が行われました。

シュンペーターによれば、経済を前進させるのは、マクロ政策ではなく、あくまで企業家のイノベーション＝自己革新であるということですが、企業家の自己革新・自助努力によってこそ経済の再生が可能となるのではないかと思います。

もちろん、自己革新が必要なのは企業家だけではありません。翻って、この「診断あきた」創刊号で私は座右の銘として「壮にして学べば、則ち老いて衰えず」と恥ずかしげもなく書きましたが、その後の自分の軌跡をふり返ったとき、内心忸怩たる思いがあります。

既に人生の半分はとっくに折り返しており、いまさら「壮」という年齢でもありませんし、後は坂道を転げ落ちるだけだと陰口を叩かれそうですが、2000年のミレニアムと歳男がダブルでやってきた今年、天が与えた巡り合わせでしょうか。初心に帰り「自己革新」にチャレンジしてみようと思います。



『歳男雑感』

高橋税理士事務所

所長 高橋 広悦

新年おめでとうございます。いよいよ世紀末・西暦2000年になりました。しかも歳男です。ならば、今年は何んな年なのか知りたくなり、暦を開いてみました。最初のページに今年の略歴が記載されています。

「閏年・庚辰（かのえたつ）・西暦2000年・平成12年・皇紀2660年」

それぞれ何を意味しているのか、事典を紐解いてみました。

- イ. 太陽暦では地球が太陽を1周する時間を1年とする。1年は365.2422日だが、平年365日、4年毎に1日を加えて「閏年（うるうどし）」として補正している。
- ロ. 庚辰（かのえたつ）は、その年の干支で、60年ごと毎年循環している。
- ハ. 西暦は、キリスト降誕の年を紀元元年と定めたもの。今年2000年目に当たる。
- ニ. 平成は年号である。年号は君主の治世を示し、現在は1世1号制となっている。
- ホ. 皇紀は、神武天皇即位といわれる西暦紀元前660年を元年と定めている。

そもそも暦とは何か？事典によると次のように説明されています。

いわゆる「暦」とは、太陽・月・星など天体の運行を観察・計算して季節や月日を定めるもので、時の流れを日・週・月・年などの単位で区切る。暦法ともいう。

人間が社会生活・経済生活を営むうえでのいわば規範として、暦はなくてはならないが、人間の生活は気候や地勢によって異なり、また、文化の発展によっても変化するので、暦法もそれぞれの土地によって異なり、年代によっても変わってくる。そのため、人類が四季の移り変わりや天体現象の周期的変化に気づいて、ごく原始的な暦法を発明してから、世界各地で数多くの暦法が考案され使用されてきている。現在世界の共通暦として用いられているのは、太陽暦の一種グレゴリオ暦である。

さて、自分のことに戻します。歳男でかつ還暦を迎えることになりました。還暦というのは、干支の循環により自分の生年が61年目（満60才）に元に戻り、生年と同じ干支に巡り会うことです。

中国の陰陽五行思想と結びついた暦法で、現代では

意味を持たない部分もありますが、なぜか日本人は暦好き・干支好き。歳男はもてはやされるし、まして還暦ともなれば、小・中・高同期生等から頻りに連絡が来ます。昔は60年が人間の寿命とほぼ同じだったことから、還暦を迎えることは非常にお目出度いこととされ祝福されたわけですが、人生90年の時代にも、まだ意味を持っているのでしょうか？

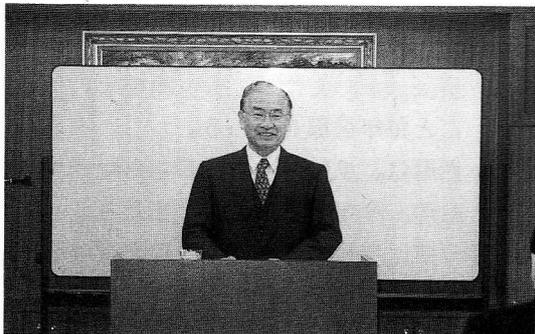
「もう一度生まれ変わる」と考える。寿命が尽きて生まれ変わるのなら、「来世もやはり犬猫でなく人間に生まれたい。それも大金持ちの貴族の子に」、女性

であれば「絶世の美女に」なんてことになりますが、「生きながら生まれ変わる」ということは、今までの60年間の生き方に線を引いて新たにスタートするということでしょう。

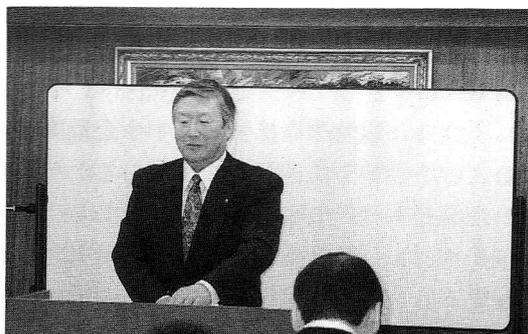
私の人生、1巡目が終わり2巡目に入るわけです。「2サイクル目の人生をどんなふうに生きるか」、かなり難問ですが、歳男である私自身の今年1年間のテーマにしたい。私の誕生日は11月27日です。平成12年11月27日を期して、首尾よく生まれ変わることができるか、元の本阿弥になるか、見物ではある。

平成11年度 支部研修会開催

(財)日本規格協会 和賀講師



秋田市都市開発部 木内次長

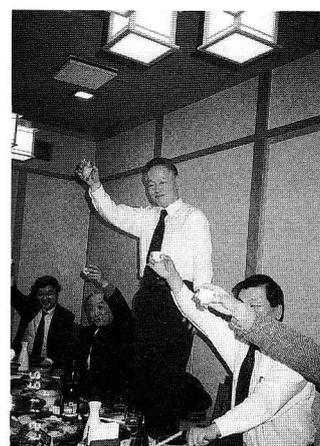


去る11月27日、支部会員14名の参加をもって、平成11年度の支部研修会を開催しました。当日は、(財)日本規格協会嘱託講師の和賀祥二氏、秋田市都市開発部次長の木内鑛生氏を講師にお招きし、最近よく耳にする旬の話題についてご講演いただきました。

和賀氏には「ISO9000の現状と取得のノウハウ」と題して、今や世界標準ともいえるISO9000シリーズの歴史・内容・認証取得のポイントなどについて分かりやすく解説していただきました。日本ではとかく難しく考えてしまいがちな傾向がありますが、肩肘張らずに取り組んで欲しいという言葉が印象的でした。

また木内氏には「秋田市のまちづくりの手法と具体例」と題して、全国各地で課題となっている中心市街地の活性化策について、秋田市の具体例を基に説明していただきました。現在秋田市の中心市街地では8つの事業が進行中で、他にパーク&ライドやTMOなどの構想もあり、これまでの拡散型から中心部回帰のコンパクト・シティ型まちづくりへの大きな政策転換を肌で感じることができました。

研修会終了後、講師のお二人も交えて懇親会を開催しました。席上、本間支部長への中小企業診断協会会長表彰の表彰状授与、新入会員の村上さん及び非会員で参加していただいた富野さんの自己紹介もあり、座は大いに盛り上がりました。



寄稿



『やぶにらみ教育論』

工藤経営診断事務所

所長 工藤 義和

I. 素朴な疑問

当然ながら、小生はいわゆる教育問題に関してはずぶの素人である。だから以下の論調は、専門家に言わせればの外れかもしれないが、素人なりに現在の教育に対する疑問がある。

まず第一に、当世の高等教育を受けた人たちの倫理観の欠如である。政治家の醜聞、政府高官高級官僚の収賄、大企業経営者の背任等々、上は大臣から下は村役場の職員に至るまで事件に事欠かない。学校の教育教科に道徳教育がないから程度の問題ではないように思われる。

次にいわゆる専門家といわれる人たちの教育改革論を聞くと、教員の人事管理改革であったり、教育設備の施設改革であったり、教育界に携わる人たちのそれぞれの立場を代表した権利の主張にすぎないものばかりのように見える。

たとえば学級の生徒数を減らせとか、教員を海外研修に派遣しろとか、教職員の休日を増やせとか、さらには教科科目を減らせとか、およそ教育改革の根本とは無縁の主張をしているように見える。

これらは素朴な疑問である。

II. 高等教育は誰のために必要か

数年前、国立大学および有名私大の卒業式における、各学長総長の卒業生に対する式辞を新聞紙上で見たことがある。小生の記憶では、ほとんどの式辞は卒業生諸君に対して「君達には充分な高等教育を施したので、社会に巣立ったらどんな困難にも打ち勝っていけるだろう。」という意味のものが多かった。つまり大学教育はその卒業生達にとって極めて有益だったわけである。だとしたら異議がある。

最高学府たる大学は、有能な青年たちを国家の財産（人材）として育成すべく、負担した国民の租税によって成立っている。高等教育が国民の租税で運営されている実態を考慮したならば、その卒業生に対する式辞は、少なくとも「君達は国民の税金によって教育された貴重な人材であり、多くの国民の期待を裏切ることのないよう心してほしい。」という趣旨で一貫しそうなものである。

つまり大学教育はその卒業生だけに有益なのではなく、その卒業生と将来接触するであろう社会にとって有益でなければならない。なぜならば大学教育に対する租税の消費は、そこに名分があると思われるからである。なかんずく「高等教育」を個人の功利のためであってはならない、という社会的視点から評価するならば、現在の教育現場の有り様は一変するのではないか。

III. 功利的に成り果てた教育

教育とくに高等教育が、あたかも社会における生存競争を生きぬくための強力な武器の役目を果たすということになれば、（つまり教育が個人の功利を目的とするのであれば）国民の租税負担のもとに運営される教育制度はどう説明されるのだろうか。

教育制度を維持するために租税を負担する国民は、場合によっては生存競争における競争相手に塩を送っていることになる。

国民は漠然とではあるが「教育という学校制度」に対して、個人の功利ではなく、社会の利得を期待している。たとえば国民は、高等教育で高度な法律知識を会得した人達に対して、その知識を駆使して知識の少ない人達との生存競争に勝ちぬくことを期待しているのではなく、その知識を駆使して知識の少ない人を援助してくれることを期待している。このような期待が実現されて初めて、国民は教育費を負担した意義を感じるようになる。

ところが昨今、高等教育を受けたエリートが知識の乏しい一般市民相手に詐欺まがいの事件を起こす。果たして「学校教育」に対する哲学はどうなっているのだろうかという疑問に突き当たる。高等教育を受けたから高級官僚になり高給を得た、高等教育を受けたから議員になって収賄した、高等教育を受けたから善良な市民をだまして詐欺を働き大金を得た、ということであれば租税で運営する高等教育制度は少なくとも納税する国民にとっては迷惑以外のなにものでもない。

少人数学級とか、教員の休暇日数とか、体育館の面積とか、教科の数とかは些末な問題である。

IV. 教育の意義の確認

教育改革はまず「教育の根本的意義」を確認するところから始める必要がある。

確かに初等教育においては、国民が社会生活を営むための普遍的な能力を涵養するという意味においては多大の貢献をしている。しかし高等教育にあっては多分に功利化しているため、教育本来の効果が希薄になっているのではないか。高等教育が功利化していることが初等教育にも影響するために、初等中等教育が荒れ

る。初等中等教育はよりましな高等教育を受けるための手段と化している。よりましな大学に合格するための通過点でしかない。

もし高等教育が個人の幸福を保障するのだとすれば（学歴偏重社会がそれを助長するが）、ランクの低い大学しか合格できない人は高い大学に合格した人に比べ絶望的である。つまり初等教育の現場でいわゆる偏差値が低いということは、人間本来の幸福からは程遠い位置にいるわけである。果たしてそうか。ここに「教育の根本的意義」を議論する意味を感じる。

高等教育は個人の幸福を保障するためのものなのではなく、社会に対してより多くの貢献を求められるものであることが確認される必要がある。理由は簡単明瞭である。国民の租税で運営されているからである。初等教育との違いは義務教育であるか否かであろう。

V. 教育の社会性と提言

さて高等教育が社会に対してより多くの貢献を迫られるとすれば、それが確実に実現するための担保が必要であろう。

現在教育の現場で報告されるもろもろ、つまり高等教育の功利化、これに伴う初等中等教育の荒廃等は要するに「教育の根本的意義」を実現するための担保システムが欠如していることにその原因があると思われる。たとえばその担保システムの一例として、次のような事柄が考えられる。

1. 高等教育を受けたものはそうでないものより社会的責任がより重いはずなので、犯罪を犯した場合の処罰は学歴の高さに応じてより重く定めること。低学歴の寸借詐欺と高学歴の寸借詐欺の刑量が同じでいいとは、小生の常識では考えにくいのである。

2. 高等教育を受けたものはそうでないものに比べ、一般に租税負担率が高くてよい。

3. 高等教育を受けないものが受けたものに比べ多額に納税した場合は、福祉の恩恵が優先して与えられる、等等。

つまり高等教育が施されるということは、それ相応に社会的な責務が増すことでなければならないだろう。このようなシステムは、初等中等高等にかかわらずどの段階の教育を受けたものでも、その能力に応じて社会に関わるかぎり人間らしい幸福にあずかることが保障されるはずである。

教育が唯々個人の功利だけを求めて制度構築がなされないよう知恵が必要だろう。とくに教育関係者が教育専門家と称して卑小な権利主張に終始し、かんじんの教育される子供や国民、ひいては国家社会の将来に盲目であってはならない。

一国の教育制度は、高い水準の教育を受けるほど（高学歴ほど）社会において最小の努力で最大の利得を得られる筈だ、などという妄想を国民に与える制度であってはならない。

(株)中小企業診断協会創立45周年記念事業

一日無料経営相談会



協会創立45周年記念事業として、当支部では『一日無料経営相談会』を実施しました。去る10月29日に開催された「ベンチャープラザ秋田'99」の一角にアドバイザーコーナーを設け、佐藤会員に経営相談を受け付けていただきました。

事務局だより

【平成11年7月～12月】

【7月10日】第2回登録更新研修実行委員会

【7月17日】第2回調査・研究事業委員会

【8月21日】第3回調査・研究事業委員会

【8月28日】第3回登録更新研修実行委員会

【 〃 】第2回理事会

【9月11・12日】平成11年度登録更新研修（26名）

【9月25日】第4回調査・研究事業委員会

【10月2日】第3回理事会

【10月29日】「一日無料経営相談会」実施

【10月30日】第5回調査・研究事業委員会

【11月1日】新規入会会員受付（1名）

【11月12日】平成11年度北海道・東北ブロック診断研究交流会（於：山形市）

【11月27日】平成11年度支部研修会（14名）

【 〃 】第6回調査・研究事業委員会

平成11年度登録更新研修 開催!!

当支部では初体験となる登録更新研修を、9月11日（土）～12日（日）の2日間に渡って開催しました。
6月から実行委員会を3回開催して準備して来たものです。当日のスナップ写真で振り返りたいと思います。

9/11	「地域経済の課題」	(財)秋田経済研究所 専務理事 高橋庄四郎 先生
	「環境の変化と中小企業経営」	(株)中小企業診断協会秋田県支部 皆川 昌三 先生
		「コーディネーター」 〃 本間 良一 先生
9/12	「ものづくり基盤の構築と地域産業の活性化」	東京経営企画センター小濱事務所 小濱 岱治 先生
	「中小製造業における先端技術の活用」	秋田大学工学資源学部 教授 大日方五郎 先生
	「中小企業の現状と施策」	東北通商産業局中小企業課長 久保田 隆 先生
	「中小企業における情報機器の活用方法」	(株)中小企業診断協会秋田県支部 成田 治男 先生



▶ 受付風景



◀ 受講風景



◀ 支部長挨拶



▶ 高橋庄四郎先生



◀ 皆川昌三先生



▶ 小濱岱治先生



▶ 成田治男先生



◀ 小濱先生のご発声で乾杯!!

事務局収受書誌類一覧

(平成11年7月～平成11年12月)

分類	書 誌 名	発行元
新聞	『中小企業振興』(763号～773号)	中小企業事業団
報告書	『流通構造変革期における中小卸売業物流効率化活性化事例調査研究』	中小企業診断協会
	『経営診断の新展開』	中小企業診断協会
記念誌	『創立40周年記念誌 北海道支部40周年記念事業「活力ある企業事例集」』	北海道支部
	『支部創立40周年 診断ひろしま記念誌』	広島県支部
	『創立40周年記念誌「21世紀をガイドする中小企業診断士」』	愛知県支部
	『創立40周年記念誌』	(株)山口県中小企業診断協
	『創立45周年記念誌』	中小企業診断協会
月報	『保証月報』(1999.7～12)	秋田県信用保証協会
会報	『診断ひろしま』(第25号)	広島県支部
	『診断三重』(No.20)	三重県支部
	『診断士』(第127～129号)	大阪支部
	『香川県支部だより』(第20～21号)	香川県支部
	『診断あいち』(No.52)	愛知県支部
	『企業診断ニュース』(第28号)	福島県支部
	『RMCきょうと』(平成11年夏号)	京都支部
	『診断和歌山』(第11号)	和歌山県支部
	『しんあい』(創刊号)	愛媛県支部
	『岩手県支部会報』(第25号)	岩手県支部
	『企業診断くまもと』(No.7)	熊本県支部
	『岡山県支部会報』(第5号)	岡山県支部
	『NRMCニュース』(第18号)	新潟県支部
	『神奈川県支部会報』(No.20)	神奈川県支部
	『診断京都』(創立40周年記念号)	京都支部
	『診断情報あおもり』(No.2)	青森県支部
	『診断北海道』(第6号)	北海道支部
	『診断いしかわ』(第8号)	石川県支部
	『診断ふくい』(第2号)	福井県支部

※上記書誌類については閲覧及び貸出可能です。ご希望の方は、事務局古木までご連絡願います。

支部事務所移転のお知らせ

支部事務所が次の通り移転いたします。

移 転 先：〒010-8572

秋田市山王三丁目1-1 県庁第二庁舎

秋田県中小企業経営指導センター内

社団法人 中小企業診断協会秋田県支部

電話番号：018-860-5512

(FAXの番号は変更ありません)

移 転 日：平成12年1月17日(月)

編集後記

- ◆秋田では初めての登録更新研修はいかがでしたでしょうか？
地元にも素晴らしい講師がいることを再認識させられるとともに、内容の充実度も特筆ものでした。
- ◆「世紀末」といえばネガティブ、「ミレニウム」といえばポジティブなイメージになるような気がします。あなたはどちらに魅かれますか？そんな想いを次号でご披露ください。(佐瀬)